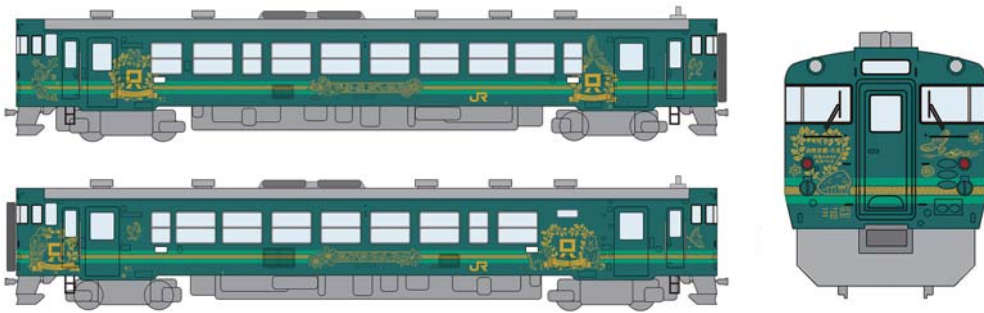


JR只見線の全線復旧と利用促進に向けて

新デザインとなったラッピング列車が運行開始!



▲三島町の第一只見川橋梁を走るラッピング列車



▲新デザインとなったラッピング列車

実行委員会はこれまでも、第1弾として2014年9月から2017年8月まで

「JR只見線利用促進実行委員会」がJR東日本と協力して企画したもので、一部区間で不通が続く只見線の利用客増加や只見ユネスコエコパークのPRを目的に行われています。

このラッピング列車は、町や町内団体などで組織する「JR只見線利用促進実行委員会」がJR東日本と協力して企画したもので、一部区間で不通が続く只見線の利用客増加や只見ユネスコエコパークのPRを目的に行われています。

新デザインとなった「只見線ラッピング列車」

3月30日、新デザインとなったJR只見線の「ラッピング列車」が、JR只見線(会津若松駅から会津川口駅間)と

の期間、新潟・福島豪雨からの復興とユネスコエコパーク登録を記念したラッピング列車「只見ユネスコエコパーク号」を企画しました。

そして、今回の「只見ユネスコエコパーク号」の第2弾は、只見川をイメージさせる青緑を基調とし、只見ユネスコエコパークに登録された自然豊かな只見町を表現するために、「イヌワシ」や「カタクリ」などのイラストを描いた車両になっています。さらに、車両の横のラインは人や縁を結ぶという思いが込められ、また「エンムスビ」の文字がデザインの中に隠されています。運行期間は2020年3月末ごろまでを予定しています。

そして、今回の「只見ユネスコエコパーク号」の第2弾は、只見川をイメージさせる青緑を基調とし、只見ユネスコエコパークに登録された自然豊かな只見町を表現するために、「イヌワシ」や「カタクリ」などのイラストを描いた車両になっています。さらに、車両の横のラインは人や縁を結ぶという思いが込められ、また「エンムスビ」の文字がデザインの中に隠されています。運行期間は2020年3月末ごろまでを予定しています。



▲残雪の中を走るラッピング列車



▲現在も小出駅～只見駅間を走る「縁結び列車」



▲会津若松駅ホームでグッズを配る委員会の皆さん



▲3月30日午後1時7分に会津若松駅を出発した一番列車

【表1】JR 只見線利活用計画に基づく只見町の主な事業

- ①車窓ガイドブック作成(只見町)
- ②駅周辺の環境整備(只見町)
- ③只見線ガイドが案内する鉄道ガイド(観光まちづくり協会)
- ④只見線応援事業への補助(只見町)
- ⑤只見線の利用啓発活動(只見町)
- ⑥只見線グッズの企画・販売(観光まちづくり協会)
- ⑦金山町と連携しての観光などの受入体制の強化(只見町)



▲今年度から不通区間の復旧工事が始まる現場(第六只見川橋梁・金山町)

一番列車のホームで
利用に呼びかける

運行開始となった当日、「JR只見線利用促進実行委員会」は一番列車が出発する会津若松駅ホームで、利用客に只見線グッズを手渡し、ラッピング列車のPRと只見線の積極的な利用を呼びかけました。

只見線の法被を着た実行委員は、只見線応援キャラクター「キハちゃん」、「只見線に手をふろう!」の文字が書かれたステッカーやコースター、縁結びの願いが込められた鉛筆などを配布し、一番列車が会津川口駅に向けて発車すると、実行委員は乗客に向けて手を振り見送りしました。

また、会津川口駅では金山町のキャラクター「かぼまる」が金山町民の方々とともにラッピング列車を出迎え、パンフレットやグッズなどを乗客に手渡し、只見線をPRしました。

県や会津の市町村など
連携して只見線利用促進

今年度より只見線の利用促進に向け、県と会津地方の市町村、観光団体などは、連携して企画列車の運行や景観整備など多くの事業が盛り込まれた「JR只見線利活用計画」に取り組む予定です。

この計画では、会津の自然や文化に触れることができる企画列車の運行や、子どもたちを対象に地域の教育資源を活用した学習列車の運行などが重点プログラムとして掲げられ、今年度より県と会津17市町村が一体となって只見線沿線の集客に向けて取り組みます。

また、計画の関連事業として只見町は表1のとおり、車窓ガイドブックや只見線グッズの企画・販売など様々な只見線利用促進事業を実施する予定で、2021年度中の全線復旧に向けて様々な取り組みが展開されます。